

2019年8月11日～14日 剣岳 源次郎尾根、八ッ峰上半部報告

メンバー；CL 谷内、SL 宮坂、倉澤、若奈、野中

好天に恵まれ今年も真砂沢定着山行を楽しんでくることができました。

昨年悪天で中止となった源次郎尾根と、5年前に宮坂さんと下部のみの縦走に終わってやり残しとなっていた八ッ峰上半部と二つの尾根を早立ちのおかげか先行者の姿を見ることなく自分たちだけでルート確認を行いながら登りきるというアルパインの楽しさを満喫できた4日間でした。

8/11 入山 快晴

AM4時茅野発 - 扇沢駐車場は予想どおり満車のようで柏原新道入口より少し下の路肩に駐車し約40分の歩きの後6:05扇沢到着。早速切符購入の列に並んで6:30始発はのがしたが次の7時のバスに乗車することができ、その後は順調に進み8:30室堂着。同じく八ッ峰に向かう諏訪山岳会の6人組とともに8:40発 - 9:20雷鳥沢 - 11時別山乗越 - 11:45剣沢野営場。警察派出所で長次郎谷の雪溪の状況はまずまずで右俣、左俣ともルートに使えることが確認でき一安心。雪溪添いのおかげで今を盛りのチングルマなどの花々に癒されながら、源次郎取りつき、剣沢の登路状況を確認しながら下降を続け13:30真砂沢ロッジ着。テント設営後入山祝いを行い早めの就寝。

8/12 源次郎尾根 快晴

AM2時起床 - 3時発 - 4時源次郎尾根取りつき～4:20登攀開始。いきなりのちょい岩場はお助けひもを出しクリアし、その後は明瞭なやぶの切り開きルートで迷いようなし。右手のルンゼルートと合流するあたりより視界が開けてくるが1峰は大きくピークはまだ遠し。右手岩壁帯に2パーティー取り付いているのが見える。7:10まずまずのペースで1峰着。せっかく稼いだ高度を一旦下げ再度の登り返しの後8時に2峰着。別山尾根～本峰～八ッ峰がぐるりと見渡せる気持ちの良い所である。下降を考えている長次郎谷左俣も大きなクラックなさそうで登っている人たちも遠望され一安心。2峰の突端に行くとしっかりした懸垂支点あり。このために担ぎ上げた50mロープ2本で懸垂を行い8:30コルに降り立つ。その後のひと頑張りです。9:30待望の本峰着。初剣の3人も含めがちし握手で完登を祝す。大休止の間に圏内となった携帯にて気になる台風

の進行遅く明日の天候持ちそうなこと確認の後、長次郎の頭とのコルへ下るがボロボロの岩場の連続で本日の一番の悪場である。コルに降り立ち左俣雪溪への乗り移りが可能なことを確認しアイゼン装着後 10:40 下降開始。快適な熊の岩のテント村を横切り厳しい照り返しに耐え下降を続け 12:15 剣沢出合い。12:50 真砂沢ベース帰着。ひたすら水分補給に努め帰還を祝う。

8/13 ハッ峰上半部 晴れ

AM2 時起床 - 3 時発 - 5:40 5-6 コル着。登攀具を装着し 6 時登攀開始。A、C フェース登攀後の懸垂下降の経験はあるものの登りに関しては初見でありルート取りにやや悩む。右手ガリーに乗り移り、ガリーを直上しコルに出、その後右手フェースを直上 (III+ぐらい) すると見覚えのある懸垂支点あり。後続の神奈川労山パーティーはガリー途中から右手斜上バンドに入ったよう。その後は C を越え、D を懸垂した後 6 峰の頭着。頭からは三の窓側に懸垂。トポにあったトラバース気味の巻き道を確認後、そちらには入らずにひたすら稜上を目指しての登高を続け 7 峰着。その後三の窓側のルンゼ状を登り 8 峰へ。チンネ左稜線に多くのパーティーが取り付いているのが見え、次は我々もと気持ちが高ぶってくる。8 峰から短めの懸垂を 2 回行いコルに降り立ち、ハッ峰の頭への「逆くの字」ルートに入り一登りで 10:40 終了点。昨日に引き続き完登の握手をかわした後、池の谷側の支点を利用し約 35m の懸垂でコルへの踏み跡に降り立ち 11:30 池の谷乗越着。大休止後 11:50 右俣下降。大きなシュルンドなく容易に下れたが昨日同様照り返し地獄に耐え 13:35 ベース帰着。本日も脱水補正にいそしむ。

8/14 下山 晴れ

AM2 時起床 - 交通機関の混雑を少しでも回避すべく 3:20 発 - 6:10 剣沢 - 7:07 別山乗越 - 8 時雷鳥沢 - 9 時室堂着。その後はラッキーなことにほとんど待ち時間なく順調に乗り継ぎを続け 10:50 扇沢帰着。大町温泉で汗を流した後、茅野に戻りテンハウで打ち上げ後解散となった。